

【おうち英語】読んだり書いたり苦手なのは努力不足じゃないかも？
～dyslexia:ディスレクシアについて多くの人に知ってほしい～



我が家の天邪鬼な息子、
何かと手が掛かる子ではありますが、
私にいろいろと学ぶ機会も提供してくれる子でもあります。

子育ては「忍耐」だと教えてくれたのも息子で…。

その息子が私に教えてくれた一番のことは
今回の記事でお届けする【dyslexia:ディスレクシア】のことでした。

過去英語教員として高校で英語を教えていた私、
ディスレクシアのことを全く知らず
生徒にはひたすら暗記を強いてきました。

単語が書けない子のことを努力不足だと思い、
「ちゃんと覚えないとダメだよ」と指導し続けること十年…。

これまでの人生で一番懺悔したことかもしれません。

「知らない」ということの恐ろしさ…。

そんな経験も踏まえ、
【dyslexia:ディスレクシア】のことを
息子のケースも踏まえながら
多くの方に知っていただきたいと思い、
今日の Insight のトピックに選びました。

おうち英語に取り組まれている方でも
お子さんの読み書きで悩んでおられる方がいらっしゃるかも。。。

それ、お子さんの努力不足が原因ではないかも…です。

我が家の高校3年になる息子、
読み書きに多少の困難を抱えているように思います。

小さいころから日本語でも言い間違い、読み間違い、書き間違いが多い子で、文字の順番が逆になってしまったりというところが見られました。

端くれながらも教育関係に携わる私ですが、LD(学習障害)に関する知識はほぼ皆無で、その当時は「そそっかしい注意力が足りない子」と思っていました。

そんなわけで、適切な支援などしてやれるわけなく、ただ「ちゃんと読みなさい!」「ちゃんと確認しないから!」とちゃんとできなくて困っている子に「ちゃんとしろ!」と無理な要求をし続けるだけでした。

今思えば反省しかありません。。

私が息子の読み書きの困難の問題をはっきりと認識したのは息子が小5の時です。

それまで読み書きに抵抗を示し続けてきた息子でしたがそろそろ英検でも受けさせてみようかと、英検3級の問題を息子にやらせてみようと思いました。

しかし「わからない」というのです。内容はそれほど難しいとは思えません。

試しに私が問題文を読んで考えさせてみました。

すると正しい答えが言えるのです。

そこで私はまた「ちゃんと真面目に読まないから!読んだらできるでしょ!」と鬼の形相で息子を叱り飛ばしました。

そして問題の続きをやらせようとするのですが、やはり「わからない」と。

「じゃあ、自分でまず声に出して読んでみなさい」と言うと、ずーーーーっと黙ったままなのです。

そしてまた「わからない」と。

赤ちゃんの頃から英語を聞いて見て育ってきて、
これまでに何千回も見たことがあるのではないかと思う
"the"ですら読めないのです。

"drink"という選択肢を「"drink"だよ」と私が読み、
数分後に「この選択肢何だった?」と確認すると、
自信なさそうに「"juice?"」という答え・・・。

「何かおかしい」とやっと思いました。

そこからネットで調べ、【ディスレクシア】という学習障害を初めて知りました。

ディスレクシアは「字を読むことに困難がある障害」を指す通称で、
ギリシャ語で「困難」を意味する「dys (ディス)」と、
「読む」を意味する「lexia (レクシア)」が複合した単語です。

日本では難読症、識字障害、読字障害など、
他にも様々な名称で呼ばれてきました。

読むことができないと書くことも難しいことから、
読み書き困難、読み書き障害と呼ばれることも多いです。

息子は音読で勝手読みが見られたり、
漢字の書きで部首や語順が逆転して書いてしまうという点は見られましたが、
全く読めない・書けないというわけではなかったため、
日本語ではディスレクシアを疑うというところまではいきませんでした。

音と文字が一致する言語、イタリア語や日本語では
ディスレクシアが表面化してくることは少ないと言われています。

ディスレクシアの発症率の調査結果によると、
日本語圏でのディスレクシア発症率は4~5%です。

一方、スペルと音が一致せず、

複雑な音韻認識が求められる英語を母語とする英語圏での
ディスレクシアの発症率は15%にも上ります。

ディスレクシアの発症率は民族によって差があるわけではなく、
使用する言語によって差があるということですね。

ディスレクシアが表面化しにくい言語が母語である場合、
英語を学習することをきっかけに
一気にディスレクシアが問題となってくる場合があります。

息子の場合、まさにこのケースかと。。。

下記にディスレクシアのこの特徴を転載します。

出典: on dyslexia

【ディスレクシアの子が見せる特徴】

知能は普通だが、読み書きが苦手(読み間違いが多い、読むのが遅い、書き間違いが多い)。

-勉強しているにもかかわらず、読み書きがなかなかできない状態を指す。

知的障害ではなく、普通~ギフテッドのあらゆる IQ にみられる。

-独創的で、対人能力が高い。

全体像の把握、物事の関係性・ストーリーの把握、空間把握、
if を考えるシミュレーション能力に長ける。

-音と文字の脳内での結びつきが弱いことから起こるらしい

-読み書きの困難は、日本語より英語に出やすい。

その理由は、英語のほうが日本語よりも"音の粒"が小さいから

-細かい聞き間違いがみられるが、音声情報の処理能力は高い場合が多い

-エピソード記憶が得意。固有名詞などの細かい丸暗記は苦手

-適切に対処すれば、読みの問題は表面上は克服される

-10人に1人程度いるというのが通説

-家族性とされるが、ディスレクシアの表れ方は一族のなかでも個人差が大きい

見事なまでに全部が全部、息子に当てはまります。。。

ディスレクシアにもいろいろなタイプがあるようですが、

息子の場合、特に【俯瞰能力】が裏目に出ているタイプのようなのです。

解説はもじこさんのサイト on dyslexia にある説明を再び引用させていただきます。

2. 俯瞰 (ふかん)能力大きな視点で物事をとらえ、全体像をつかむ力。

◆表れ方・断片的な情報から、全体像を思い描く

- ・人が気付かない関係性を見抜く
- ・複数の視点から物事を眺める
- ・一つの専門におさまらず、複数分野にまたがって活躍する。

普通とは異なる経歴・つかえながら読むが、内容理解は深い

◆この能力が裏目に出ると・速さ正確さが求められるテストが苦手

- ・設問を深読みしすぎて意味を勘違いする
- ・順序立てて論じるのが苦手

◆適職 科学者、デザイナー、企画関係などもじこ塾での表れ方・・・

読めさえすれば内容はよくわかる。

周りをよく見ており、空気を読んで行動する。

話が飛躍する、時系列に沿わない。

大局観がある。相手の立場に立てる(優しい、優柔不断)。

単語の真ん中がもやもやする。

※「ディスレクシアは全体像が見える」。

この能力は、時空を超える壮大なスケールの洞察力として現れます。

一方、細部(スペルなど)に注意が行きにくいようです。

出典: on dyslexia

小さなころから息子は口が達者なタイプで、

人が思いつきにくい発想をしたり、

小学校低学年のテストでも問題を深読みしすぎて✕になる、

ということがしばしばありました。

※高3になった今では、現代文の模試の点数の乱高下がヤバいです。。。

今でも発想の豊かさは健在で、

私が思いつきもしないようなことや

壮大過ぎる夢のようなアイデアを出して来たりします。

記憶の出力方法も独特です。

中学のころ、息子の期末テストの勉強に付き合っていたのですが、

「寛政の改革をした人は誰？」と質問を出すと、

「松平定信」を「松」→「平」と最初から書き始めるのではなく、

「定」→「松定」と書いて、う~~~~んとしばらく悩み、
「あ!松平定信だ」という感じで書いていくのです。。

記憶はできているようですが、それを取り出す手段というのがかなり違うようです。

そんな息子の様子を見ていると、苦勞しているように見えますが、
当の本人はそれが自分にとっては普通であり、
他の手段が取れないためそうしているので、
あまり苦には思っていないようです。

ただ記憶を出力するのに時間が掛かるため、イライラはしています。

そして息子には、音と文字は別に存在するものようで、
「松平定信を読んで」というと、「なんて読むのか知らん」と言ったりして、
どういう記憶構造になっているんだ・・・とビックリ仰天させられることもしばしばです。

このような形で今もディスレクシアと付き合っているわが家ですが、
最初「息子がディスレクシかもしれない、いや絶対そうだ。。」
そう確信したときは、まず絶望しました。。

とんでもなく絶望しました。

日本の教育・受験はペーパーテストが絶対であることは明らかですので、
息子はそれに対応していけないと思いました。
特に英語は小5の時点で1語も読めないという絶望に値する現実を見せつけられ、
ただただ私は悲観しました。

そんな絶望している最中に会ったのが Jolly Phonics です。
ディスレクシア等、LD(学習障害)を持つ子に
Jolly Phonics が有効な場合が多いという情報に出会うことができ、
藁にも縋る思いで Jolly Phonics に息子と取り組み始めました。

Jolly Phonics に出会うまで、
恥ずかしながら、フォニックスのことを
【小難しい読み書きのルール】程度にしてかかっておらず、
「別にフォニックスなんて習わなくても
英単語を読んだり書いたりできるのだから学ばなくてもいいんじゃない?!」
とすら思っていました。

フォニックスを学ばなくても
英単語を読んだり書いたりできるようになる人の方が大半かもしれません。

日本の公教育での英語は、
フォニックスを教える機会が設定されていませんので
みんな努力と根性で単語を覚えていきます。

私もそうでした。
ノートに英単語を書いて書いて書きまくって
体に覚えさせる!みたいな。

書けるけど正しく読めないこともあるという単語がいくつもありましたが、
私が学生だった時代は特にリーディングができれば
それで9割OK的なテストだったので英語学習という面ではそれで大丈夫でした。

そんなわけで、
私もフォニックスの知識は一切持ち合わせていなかったため
息子と一緒に一からの学習となりましたが
タイミングよく山下桂代子先生のセミナーで学ぶこともできたおかげで
なんとかスムーズに学習を進めることができました。

そして・・・42音の学習が終わるころ、驚くべきことに、
息子は英単語を読む書きできるようになっていました。

もちろんとどとしさはありましたが、
全く読むことができなかった半年前を思えば、
それは奇跡のような成長でした。

そして読むことができるようになっただけでなく、
書くこともできるようになったのです!
そして私自身も
英単語の読み書きが圧倒的に楽になったことを実感しました。

なんであんなスパルタ式の英単語習得法を自分に課してきたのだろう・・・
と愕然とするほどでした。

息子のディスレクシア問題は最初は絶望でしかありませんでしたが、

多くの学びを得、これまでの自分の価値観であるとか常識が
一気に瓦解していく体験をさせてもらいました。

そして同時に懺悔の思いも。

息子にはもちろん、それまでの英語教育で関わった子どもたちに、
思いっきり心の中で詫びました。

ちゃんとしようとしている子に
「ちゃんとしなさい!」「真面目にやりなさい!」
と言ってきた自分を心の底から恥じました。

子どもの個性を理解せず、支援という手を差し伸べることなく、
できなくて困っていることを一方的に
「なんとかしろ」と言っていたことが猛烈に申し訳なく思えたのです。

確かに息子は学校のテストでは今も困っています。
一般的にはケアレスミスと言われるミスでボロボロと点を落としてきます。

きっと学校の先生たちには「もっとしっかり見直しなさい」と思われているでしょう。

でも息子にはペーパーテストでは測り切れない才能があるのです。

テストの点数だけを見ていたら見落としてしまう才能があるのですよね。

それを親である私までもがテストの点数だけを見て
「この子はバカだわ」とジャッジしてしまっは、
息子は息子が持つ才能を生かす機会を失ってしまうでしょう。

本当に恐ろしいことです。

幸い、わが家では息子が小5の時に
息子が英語学習で抱える困難に気づき、
中学校入学前に手当てすることができ、
}今、なんとか英語のペーパーテストにも対応できています。

もしこれが中学入学以後だったらとても間に合わなくて、
授業、テストで息子が自分自身に絶望を感じ、

すべてにおいて自信を失うことになっていたかもしれません。

おうち英語を続けてきて、いろいろな恩恵を受けてきたと思いますが、一番の恩恵は息子のディスレクシアに早めに気付くことができたことではなかったか、とすら私は思っています。

気付くと同時に、支援する方法に出会えたことも幸運でした。

ということで、めでたしめでたしのハッピーエンディング!というわけではなく、我が家の息子以外にもこのような思いをし、現状の英語教育から落ちこぼし(落ちこぼれてではなく)に なってしまっている子たちがいるのではないかと…
と思うと、やりきれない思いになります。

読み書き困難を抱えるお子さんは思っている以上に多いと感じています。。。

私には小さなことしかできませんが、お役に立てる時はお役に立ちたいなあと思い、主宰するオンライン英語スクール Englishbuds にて Jolly Phonics の講座を開いています。

その講座を通じ、子どもが秘めている可能性というものを逆に子どもたちから教えてもらう日々です。

おうち英語とは、子どもをバイリンガルを育てることだけが目的のものではなく、英語を通じて子どもと向き合えることで受ける恩恵は多岐に渡るのです。

そんなことも伝えていけたら…と思っています。

MommyKayo note 2020年12月5日投稿記事に一部加筆